

令和7年度良好な水環境保全・活用モデル事業

高校生と釣り人によるイワナの資源量調査および
水圏活用と保全のための拠点・コミュニティづくり
【報告書】

2026年2月

GOODLIFEISLAND合同会社

一般社団法人遊ばざるもの学ぶべからず

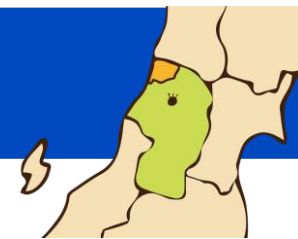
- I. 地域の概要～地域の特徴と活動の背景～ P3～5
- II. モデル事業の実施内容 P6～14
- III. 成果と今後の課題・展望 P15～19

Ⅰ. 地域の概要

～地域の特徴と活動の背景～

山形県のおでこ、遊佐町（ゆざまち）

3



- 人口：11,818人 / 言語：庄内弁 / 産業：米、鮭、湧水が誇り
- 特徴：県内最高峰「鳥海山（ちょうかいざん）」2236m / ウイスキーの町※世界で唯一、2つのウイスキーブランドがある。

ジオパーク認定、町内で完結する「月光川（がっこうがわ）水系」

鳥海山を水源とする月光川（がっこうがわ）水系は、山形県内の人工ふ化事業において9割以上の採捕量を占めるシロザケをはじめイワナ、ヤマメ、鮎、ホトケドジョウ、イバラトミヨなどの貴重な魚種などが数多く生息する豊かな水圏。産業や観光面では、令和9年度に開通予定の「新道の駅」の計画があり、産直や飲食だけでなく、ジオパーク案内所やアウトドア製品を取り扱うショップなどが併設し、鳥海山から日本海へ続く豊かな水環境や自然を活かした誘客が地域経済にとって重要な取り組みとなる。

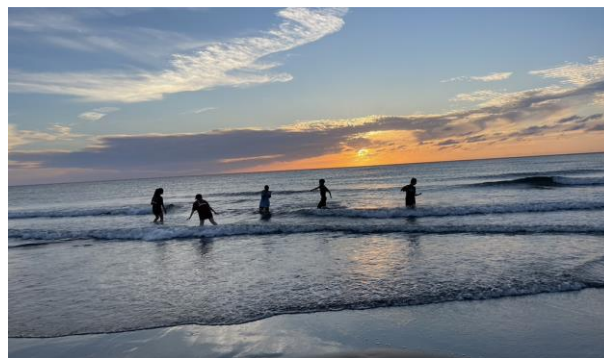


(YAMAP流域地図より引用)

遊佐PAT整備事業計画設計書（羽田設計事務所より引用）

■ 意思ある高校生の巻き込み：県外からの教育移住「地域みらい留学制度」の導入

山形県立遊佐高校の廃校危機から始まったが、これを機に遊佐町では教育を核としたまちづくりの実施につながるなど、町の重要プロジェクトの1つである。遊佐高校の卒業生がインターン生として遊佐町のPR活動を行っており、毎年、都市部の中学生に対して遊佐の自然や人の営みを体験するプログラムを考案・実施。



■ 「トリウミヤマアカデミー」：水圏の保全に関するイベント開催



環境 教育 アウトドア 生態系

OPO! Summer 2025 ～釣りを次世代に!～

はじめての方でもわかりやすく、シロギス釣りにチャレンジしましょう。また海の安全と、環境問題についても学ぶことができます

開催日時: 2025年7月12日(土) 10:00～18:00

開催場所: こがたランド&付近の砂浜

参加費: 親子2人1組 2,000円(1名追加につき+1,000円)



生態系 イベント アウトドア 環境

ゆざ湧水学習会2024「湧水とそこに棲むサカナ ～次の世代に豊かな水環境をつなぐために～」

今年のゆざ湧水学習会は、遊佐の貴重な自然資源のひとつである「湧水」と、そこに棲む「サカナ」に注目して、豊かな水環境をいかに保全・再生していくのかをテーマに開催します。

開催日時: 2024年12月6日(金)18:30～21:00

開催場所: 遊佐町稲川まちづくりセンター



環境 教育 アウトドア 生態系

OPO! Summer ～庄内浜から環境問題にアクション!～

釣りやシーカヤックなどのマリンアクティビティを楽しみながら、身近にある美しい自然を通して海洋環境問題について学ぶ講座です

開催日時: 2024年8月31日(土) 6:00～12:00

開催場所: マリンパークねずがせき周辺

参加費: 親子2人1組 5000円(こども1名追加につき+1000円)*釣り餌、仕掛け、シーカヤックレンタル、ライフジャケット料金を含みます

II. モデル事業の実施内容

高校生と地域の若者参画による月光川の生態系調査および
水圏活用と保全のための拠点・コミュニティづくり

(課題)

- ・体験プログラムで遊佐の自然を体感し、遊佐町に意思ある若者が増えていても、ヒトと自然がつながっている感覚がなく、高校生を取り巻く大人も含め「豊かで楽しい遊佐をつくるのは自分ではなく”他人事”」になっている。また、川遊びをしたことのない若者も増えているため、釣りなど「楽しい！」という感覚から川の保全に興味を持つ若者を増やすことが重要である。
- ・水圏の保全、再生を考える上で重要な役割を担っている「月光川養漁業協同組合」は、溪流釣りやモクズガニ漁などを目的に現在130名の組合員が所属し、会費のほか釣りを目的とした遊漁料が運営を支える重要な収入源となっているが、組合員の高齢化や会員数が減少している。
- ・「遊佐の湧水は素晴らしい」と大多数の町民が言っているのに、語れる月光川のデータがない。
- ・パーキングエリアタウンの事業を契機とした観光面での振興策が活性化する一方で、豊かな自然資源を消費するだけでなく、保全や再生に向けた取り組み、その体制や仕組みづくりも並行して整えていく必要がある。

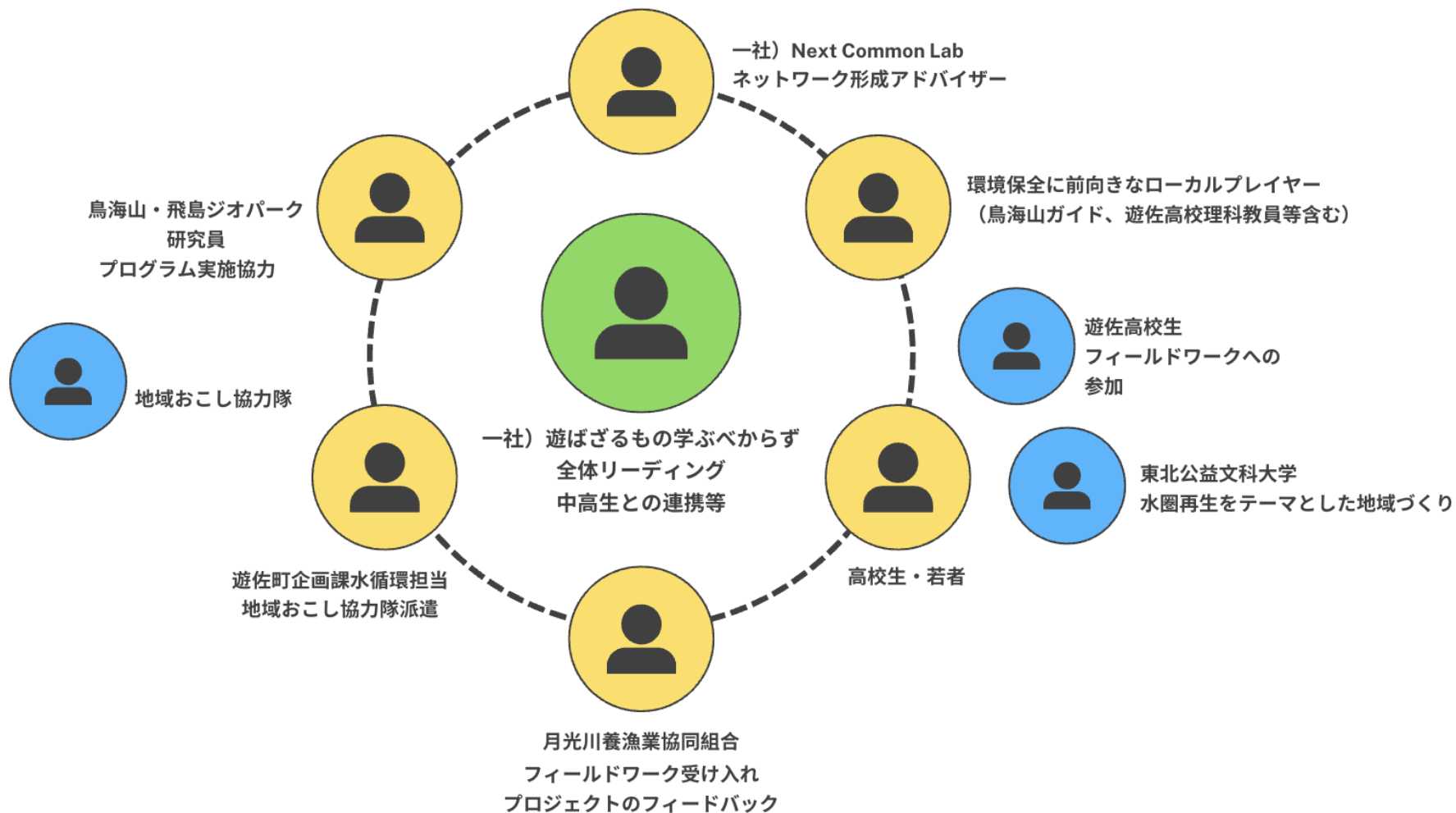
(ねらい)

遊佐町の月光川水系に、地域の高校生をはじめとする地域住民が関わり、様々なセクターが協働して「**遊佐の水圏を楽しみながら次世代に繋ぐ**」仕組みとネットワークづくりを目指す。

(取組内容)

- 1) 地域の高校生や若者が月光川養漁業協同組合さんの水辺の保全・作業活動（放流や魚道整備等）へ参加
- 2) 高校生による都市部の中学生や地域の若手への流域ツアー企画・実施
- 3) 地域の高校生と若者が調査体験を実施し、月光川を知る
＜水温・水質調査、水生昆虫観察、環境DNA調査体験＞
- 4) 「みんなの川プロジェクト」発足





■ 実施内容

●月光川養漁業協同組合が行う稚魚（ヤマメ・イワナ）の放流に参加

参加者：遊佐高校生3名、東北公益文科大学学生2名

地域の若者4名、漁協4名

※遊佐高校の「デュアル実践」という長期インターンシップのカリキュラムの中で今回の放流に参加させていただき、平日の日中でも遊佐高校生やメンターの大学生も参加することができた。

●2024年7月の豪雨で被災した河川における魚道整備の見学

参加者：遊佐高校生1名、地域の若者1名

※気候が不安定で前もって日程を決められず、参加者は少人数となった。

■ 実施成果

- ・ 普段交流のない漁協の理事と若者が関わることができ、以後のイベントなどで協働できる関係性が構築できた。

▽放流後の参加者からの意見交換会でのコメント

- ・ 放流のイメージが無かったのでシンプルに面白かったのと、イワナとヤマメの放流方法が違うことも新しい発見だった。
- ・ 魚道整備は見学しか出来なかったけれど、昔ダムづくりをよくしていたので石を動かすことも楽しそうだし、魚道の作り方を知りたかった。
- ・ 漁協の方々がカッコよくて、こんな歳の取り方をしたいと思った。
- ・ 放流する稚魚の数がイメージしていたよりも少なく、それでも釣りが楽しめるということは、月光川は豊かな水圏なのだなと思った。



事業内容② 高校生による、都市部の中学生や地域の若者対象の流域ツアーを実施

■ 実施内容

●流域ツアーを主催する遊佐高校生と大学対象の月光川養漁業協同組合による川の遊び方レクチャー（2025/8/31）

- ・参加者：遊佐高校生1名、東北公益文科大学生1名、地域の親子1組
- ・レクチャー内容：近所の笹竹で釣竿づくり、生き物（昆虫・魚）採り・観察

●遊佐高校生による、1泊2日の流域ツアー企画・実施（2025/9/20-21）

- ・「親遊の集い in 遊佐 ～地域資源を活用した若者向け滞在型プログラム～」
- ・参加人数：計7名（高校生2名、大学生5名※近隣市町村より3名、県外都市部より4名）



<プログラム内容>

【1日目】

- 11:00 集合・オリエンテーション
- 13:00 流域ツアー（釜磯海岸）
- 15:00 創作活動（アートワークショップ）
- 17:00 夕食調理（地域食材を用いた芋煮作り）
- 20:00 交流会（振り返り・対話）

【2日目】

- 09:00 自然体験活動
（河川での水遊び・生物観察）
- 11:00 昼食調理・片付け
- 14:00 解散



事業内容② 高校生による、都市部の中学生や地域の若者対象の流域ツアーを実施

■ 実施成果

<主催した高校生の報告会より>

① 地域への愛着形成

参加者アンケートでは、「同じ県内とは思えない自然の豊かさに感動した」「また来たい」との声があがり、遊佐町の海山川の近接性が、若者にとって魅力的なコンテンツであることを再確認した。

② コミュニティ形成

「共同調理」や「自由探索」のプロセスを共有することで、初対面の参加者間に強い連帯感が生まれた。

参加者からは「またこのメンバーで集まりたい」との感想が寄せられ、継続的なコミュニティへの発展が期待できる。

③ 課題点

告知期間が短く、SNSでのリーチ（約8,000PV）を参加申し込みに転換できなかった。

次回は最低1ヶ月のリードタイムを確保する。

寒暖差や天候変化への事前周知、および現場でのリーダーシップ（役割分担）に課題が残った。



■ 実施内容

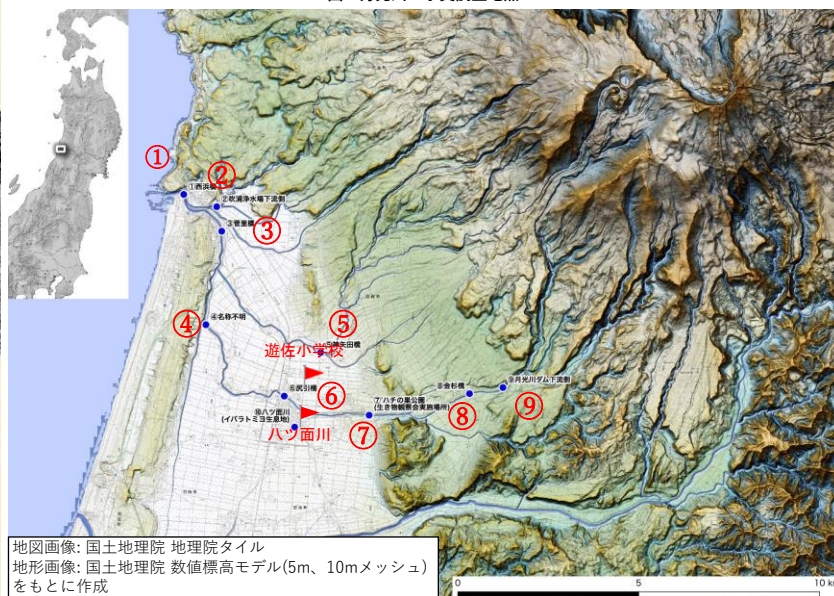
● 調査体験イベント「月光川の水辺の生き物観察会」(2025/9/13)

- ・参加者：中学生2名程度、高校生5名程度(遊佐町外含む)、大学生5名(通信制大学生含む)
大人8名(月光川養漁業協同組合、ジオパーク研究員、遊佐高理科教員、遊佐町役場、地域起こし協力隊)
- ・内容：三橋弘宗先生による水生昆虫や環境DNA採取
8項目(水温、電気伝導度、pH、COD、窒素、リン、全硬度等)の調査実施
- ・詳細：月光川流域の9地点にて調査、その他9地点の湧水スポットでも採取。

<結果> (留意点) 調査当日は9月中旬であり、天候も悪かったため、雨で濁った状態であった。

- CODはおおむね4mg/Lであった(今後の調査結果において本結果を目安とする)
- 安全性の観点より、今後の生きもの観察会・親水エリアは、子供たちが川にアクセスしやすい場所として「遊佐小学校▶」と「ハツ面川▶」を設定し、継続的に調査を行うことにした。
- 今回の調査は9月中旬でかつ雨天後となってしまったため、次年度の調査では、夏の最高水温時のデータ等が計測できるようにする。

図 月光川の水質調査地点



地図画像: 国土地理院 地理院タイル
地形画像: 国土地理院 数値標高モデル(5m、10mメッシュ)
をもとに作成

表 月光川の水質調査結果

地点	電気伝導度	pH	COD	アンモニウム態窒素	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素	リン酸態リン	全硬度
単位	mS/m	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
①	1980	7.29	6	<0.2	<0.005	0.5	<0.02	200
②	128	-	3	<0.2	0.02	<0.2	<0.02	50
③	43	7.29	8	<0.2	0.02	<0.2	<0.02	100~200
④	88	7.43	4	<0.2	<0.005	0.5	<0.02	20
⑤	82	7.20	3	<0.2	<0.005	<0.2	<0.02	20
⑥	76	7.31	3	<0.2	<0.005	<0.2	<0.02	20
⑦	68	7.47	4	<0.2	0.01	0.5	<0.02	20~50
⑧	88	7.43	3	<0.2	<0.005	<0.2	<0.02	20
⑨	60	7.39	3	<0.2	<0.005	<0.2	<0.02	20

※①~⑨地点の水温は未計測

湧水地点	水温(℃)	電気伝導度(mS/m)	pH	全硬度
丸勝	18.5 [※]	120	7.13	50
遊佐人家	17 [※]	95	7.25	20
深山神社	13	95	7.22	20~50
貴福神社	13	129	7.08	50~100
六日町	12	86	7.30	10
ハツ面川	14	113	7.46	20~50
にぎわい	14	100	7.41	20
はっちや	12	96	7.43	20
京屋	13	134	7.24	50

左表 湧水スポット水質結果

「この行事は、令和4年度環境省自然体験活動推進事業「遊佐町」事業の一環として実施しています。」

月光川の水辺の生き物観察会

遊びながら、川のことを学ぼう!

月光川は、鳥取山からの豊富な湧水で育ち出ている自然豊かな清流で、夏でも水温が低く保たれているので、多種多様な生き物が生息しています。人並み近くでモリナガササガモ、カササギなど、多くの鳥やアマガエル、ツツクシガキ、珍しい水生昆虫なども見ることが出来ます。

名水の産地が「まねて」

日程 9月13日9:00~11:30

費用 無料 ※小学生以下の参加の場合、保護者同伴でお願いします

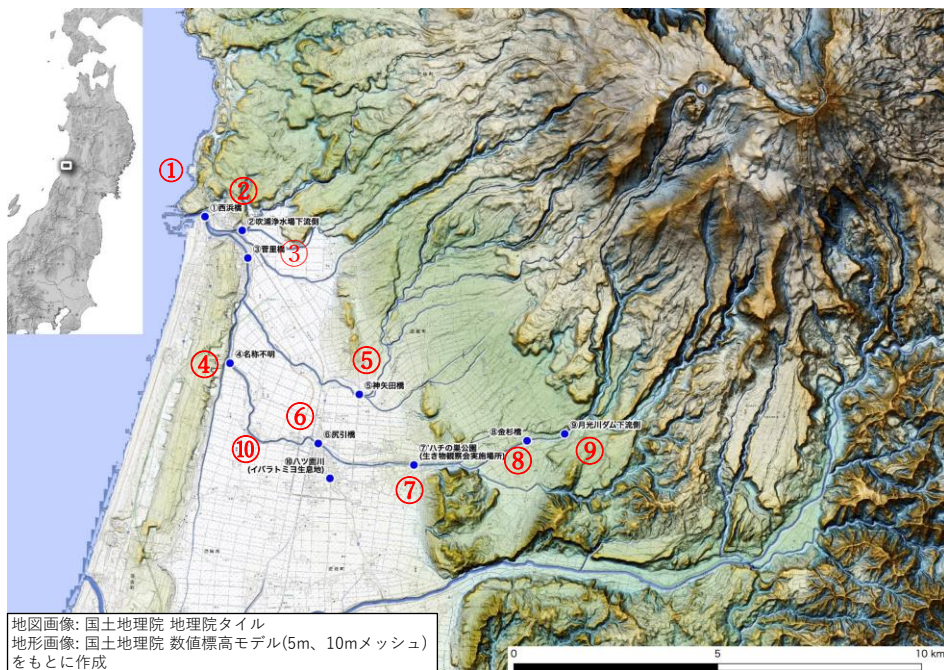
- 集合場所: おてこBASE (遊佐町)
- 観覧車: 遊佐町 遊佐小学校前駅
- 用意するもの: 濡れタオル・長靴(アシカシューズなど) 履 (あれば)、軽便トイレ、軽便トイレ、軽便トイレ
- 講師: 鳥取県立ふるさと館の専任講師 三橋弘宗 氏(水生昆虫や水質分析、川の自然保護の専門家です)
- 主催: 一般社団法人遊佐町のまちづくりセンター

お問い合わせ申し込みはこちら
締切: 9月12日17時まで

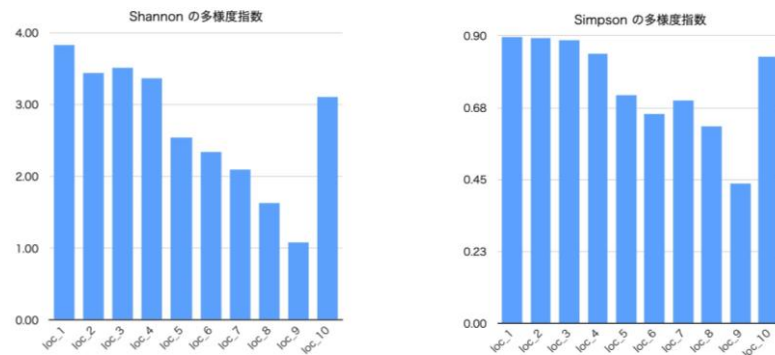
環境DNAの結果

上流より下流が生物多様性が豊富で、イワナも下流域でも生息していることが分かったので、下流域で保全活動を実施し、調査も継続していく。

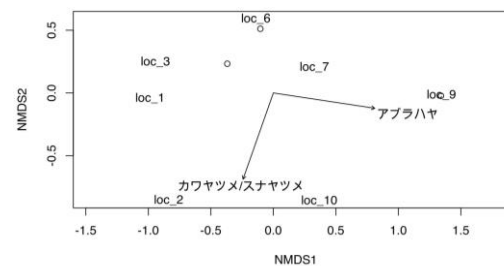
図 月光川の水質調査地点



グラフ：A <多様度指数>



グラフ：B <生物群集構造NMDS>



●グラフ：A <多様度指数> (各地点の生物多様度のグラフ)

2種類の指数をグラフにしたところ、下流から上流に行くにつれ、多様度は下がっている。

●グラフ：B <生物群集構造 NMDS> (生息している生き物から見た場合、どことどこが似ているか)

2本の矢印は、各地点の違いを最もよく代表する生物で、

「カワヤツメ/スナヤツメ」の多い②(牛渡り川・滝斑のやや下流)と⑩(八ツ面川)が他と大きく違っている。そして残りは、ほぼ下流から上流に行くに従いアブラハヤが多くなっている。

No⑧,⑨ 地点のみ、「ニッコウイワナ/ヤマトイワナ」が出ていることがわかった。

■ 実施成果

●今後のプロジェクト運営において重要なステークホルダーの集結

- ・鳥海山飛鳥ジオパーク推進員、遊佐高校教員、地域おこし協力隊、遊佐町役場など、企画段階で接点がなかった方々が今回のイベントをきっかけに関わってくださることになった。

●次世代の手応え感

- ・参加した中学生から大学生のうち、これまで川に入った経験がない生徒が半数いたが、そんな若者にも興味を持ってもらえるコンテンツであることが分かった。
- ・調査体験については、学生だけでなく地域の若者（大人）も初めて経験する参加者が多く、「楽しかった」という声があがった。「楽しみながら守る」の第一歩につながった。



みんなの川プロジェクト

「川の多様な楽しみ方ができるプラットフォーム」
水辺を軸にしてみんなの交流が促進される仕組みづくり

■ 他地域の先行事例視察（三重県尾鷲市_みんなの森）

●目的：

- ・尾鷲市で行われている「みんなの森」プロジェクトを視察し、「みんなの川」プロジェクト運営の参考とする。
- ・「ローカルコープ尾鷲」の取組を遊佐版ローカルコープとして導入する参考とする（山・里・海をつなぐ地域資源マネジメントの構築、森林・海洋の環境価値を活かした地域内循環経済モデル、流域学・ネイチャースクール等）

■ 実施成果・課題等

- ・遊佐らしい「みんなの川」の在り方や、ゾーニング・規模感のイメージが出来、同行したメンバーと本プロジェクトやその先につくりたい共通イメージを持てたこと。
- ・地域資源マネジメントに関してもイメージを持つことは出来たが、実施するには、行政内のキーマン的存在の役割が大きく、遊佐町役場との連携が課題（現状は担当課が決まっていない）
- ・尾鷲市が開校する「気候変動を生き抜く学校」と遊佐の魅力化の取り組みは親和性が高く、連携できる可能性を感じた。



III. 成果と今後の課題・展望

令和7年度の取り組み

若年層の新たな担い手の創出

高校生・大学生・地域の若者が放流、魚道整備見学、生態系調査、流域ツアー企画等に主体的に参画した。これまで川に入った経験のなかった若年層が、月光川水系に直接触れ、「楽しい・また関わりたい」というポジティブな意識変容が確認された。

多様な主体による協働体構築

漁協や学校の教員、ジオパーク、自治体、地域おこし協力隊、研究者が一堂に会しこれまで点在していた取組が“水環境”を軸に接続された。本事業を契機として「みんなの川プロジェクト」の立ち上げ準備が進んだ。

基礎データ取得と可視化の第一歩

月光川水系9地点および湧水地点において、水温・水質・水生昆虫環境DNA調査を実施。「真夏でも低水温/軟水」「COD4mg/L程度」という月光川の特徴が整理され、今後の継続調査や環境教育に活用可能な知見を得た。

期待される効果

水環境保全の担い手拡大と継続

「保全＝大変・専門的」という認識から「楽しみながら関われる身近な活動」への転換が進み、次世代の継続的関与が期待される。

月光川の価値向上

生態系調査結果や若者の活動を通じて、月光川水系の特徴が“語れる価値”として整理され、教育・観光・ブランディングへの展開が可能となる。

地域内外への波及

高校生が主体となる流域ツアーにより関係人口の増加が見込まれる。今後の道の駅整備やジオパーク施策とも連動し水系×教育を核とした地域づくりの基盤となる。

『楽しみながら守る』を起点とした若年層参画による月光川水系保全・活用の仕組み

「若年層の関与不足」「水環境と暮らしのつながりの不可視化」という地域課題に対し、遊びを通じた関係性の再構築を図る。

モデル事業の取組（令和7年度）楽しみながら「知る、守る」につながる！

【楽しさ・誇りの醸成】

- ・高校生・大学生・若者の保全活動参加
- ・放流・魚道整備の見学・体験
- ・流域ツアーの企画・実施

【科学的理解の深化】

- ・水温・水質・水生昆虫・環境DNA調査
- ・流域9地点＋湧水地点
- ・専門家と連携した調査体験

【多主体協働の場づくり】

- ・月光川養漁業協同組合、研究者
- ・若者（小・中・高・大学）
- ・ジオパーク、地域おこし協力隊

「関わる → 知る → 誇る → 伝える → また関わる」

成果（アウトプット）

- ・若年層の新たな担い手の創出
- ・水環境データの取得・蓄積
- ・多主体協働体制の構築
- ・「みんなの川プロジェクト」立ち上げ

波及効果（アウトカム）

- ・水環境保全の担い手拡大・継続
- ・教育、探究学習への展開
- ・地域資源としての、月光川の価値向上
- ・関係人口、交流人口の増加

目指す地域の姿（ゴール）

みんなが関わり、誇り、次世代
につながれていく「みんなの川」
としての月光川水系

今後の展開（来年度）

「みんなの川プロジェクト」実施

小さな自然再生＋継続調査

ゾーニングによる水辺利用/資金循環

■ 今後の課題

単発イベントに留まらず、継続的な
関与の仕組みをどう構築するか

調査結果を「実感」や「行動変容」
につなげる可視化

水辺利用と生態系保全の両立
(ルール・ゾーニング)の整理

■ 今後の展望

「みんなの川プロジェクト」の本格始動

川の多様な楽しみ方ができるプラットフォーム：水辺を軸にしてみんなの交流が促進される仕組みづくり



- 小中高校生、若者を対象に、月光川に親しむイベントやツアーの開催
小さな自然再生・保全活動等)
- 漁協と連携した魚道づくり、遊漁の在り方検討、簡易調査体験を実施

- 月光川水系におけるゾーニングを検討し、<保全重点エリア>
<体験・遊漁エリア>を整理
- 釣り人等から得られる収益を保全・教育活動へ還元する循環モデルを構築する。

- 水温・水質調査を毎年継続し、結果を蓄積・比較する（データセンター的なweb上のプラットフォーム等）
- 調査結果を冊子やWEBで発信し、地域ブランドや教育に活用